

生分解性マルチ (Bio-PAL) の 薄肉化効果確認試験

JA十勝高島

山根 一敏



5月24日 試験品



5月24日 慣行品



7月2日 試験品



7月2日 慣行品



9月17日 試験品



9月30日 試験品

試験目的

生分解性マルチ (Bio-PAL) の薄肉化効果確認試験

試験作物 及び品種

南瓜

試験資材 及び数量(規格)

Bio-PAL (0.012mm×135cm×400m) 透明1本 有孔
畝間66cm×株間60cm×2C 60φ

慣行資材

カエル一チ (0.018mm×135cm×400m) 透明 有孔
畝間66cm×株間60cm×2C 60φ

栽培方法

定植日	収穫日	【栽植密度】 畝幅：66cm 株間：60cm
慣行区：5月24日 試験区：5月24日	慣行区：9月25日 試験区：9月25日	

資材使用期間

5月24日～

試験結果

(1) 作業性について(慣行品との比較)

慣行品に比べて、伸びに強く展張しやすく感じられた。展張時は畝への密着性が高く、風によるばたつきが少なかった。

(2) 作物の生育状況または、収穫への影響

試験区は、地際の分解がやや早かったが、生育初期の保温性は保たれているように見受けられ、生育に差は見られなかった。

(3) 栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：今回の試験では400m巻と、慣行品と同様の長さであったが、試験品は薄肉のため長尺巻きが可能で、作業効率の向上が期待できる。

【問題点】：試験品の方が薄肉の分、保温性が下がる可能性がある。

(4) 資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品よりも、やや分解が早い。
また地際の裂けが見られたが、飛散するほどの崩壊でなければ問題ない。

モニター感想

展張時は、伸びに強く感じられ、作業しやすかった。石などに当たっても、伸びて破けにくそうである。

7月には地際あたりで破れ(裂け)が見られたが、マルチとしてはそれ以前に機能しているため、問題はないと思う。慣行品はやや分解が遅く、収穫後に畑に鋤き込んではあるが、1年経っても残っている場合がある。

JA担当者の感想(購買部 小川係長)

強度的に問題がなければ、作業効率が向上するので、ぜひ普及するよう進めたいと思う。

薄肉の分、分解しやすいかどうか、来春に向け状況を確認し、取扱いについて検討したい。

今後の使用について

継続して使用したい。
600m巻きや800m巻きなどの長尺巻きで、来年度再度試してみたい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 クリントート

4 機能性マルチ

5 育苗資材

6 酪農資材

7 省力化資材

8 その他